

令和7年度第1回佐賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定推進委員会 議事概要

○日時

令和7年10月17日（金）15:00～16:30

○場所

佐賀市産業振興会館 大会議室

○出席者

【委員】（順不同、◎は会長）

◎田代委員、石井委員、池田委員、谷口委員、小副川委員、小林委員、荒木委員、
村山委員、諸田委員、久保山委員、吉岡委員、立石委員

【事務局】

<佐賀市>

牛島保健福祉部長、松枝福祉総務課長、野田福祉総務課係長、谷口福祉総務課主任
中島生活安全課長、石橋生活安全課副課長、西生活安全課主任

<佐賀市社会福祉協議会>

今井事務局長、池田事務局次長、渡邊地域支援課長 江原地域支援課副課長、
馬場地域支援課係長、鈴木地域支援課主事、牟田口地域支援課主事

【傍聴者】 0名

○次第

1 開会

2 委嘱状交付

3 挨拶（佐賀市・佐賀市社会福祉協議会）

4 議事

(1) 第4期計画の振り返りについて

(2) 第5期地域福祉計画・地域福祉活動計画の骨子（案）について

(3) その他

5 閉会

■会議概要

1 開会

○事務局

- ・委員の過半数以上の出席により会の成立を報告

2 委嘱状交付

委員へ委嘱状を机上交付

3 開会挨拶

牛島保健福祉部長、今井事務局長から挨拶

4 議事

○事務局

- ・会議については、佐賀市審議会等の会議に関する規程に基づき会議を公開する。

(1) 第4期計画の振り返りについて

○事務局

- ・【資料3】を基に説明

質疑・意見

○委員

- ・現場レベルで感じたことは、子どもや家庭を支える取り組みが広がっていて、地域の居場所づくりや支援体制が前進している。行政と民間の連携や情報共有の仕組みづくりが重要で、関係機関同士のつながりも深まってきている。新しい支援の形も生まれていて、これらの動きは計画の成果として評価できる

○事務局

- ・第4期中に進展したと評価していただいた、第5期ではさらに充実を図りたい。

○委員

- ・第4期の評価の中に再犯防止に関する取り組みがないが、第5期でどのように展開していくのか。

○事務局

- ・4期では、再犯防止の視点はなかった。アンケート調査の結果等を基に作成していく。

○委員

- ・評価の総括で連携について触れているが、どのようなものか具体的に教えてほしい。

○事務局

- ・居住支援における不動産会社との連携や農業分野との連携が必要だと感じている。

(2) 第5期地域福祉計画・地域福祉活動計画の骨子(案)について

○事務局

- ・【資料4】～【資料7】を基に、説明

質疑・意見

○委員

- ・再犯防止に関する取り組みは、現場としては非常に怖い。慎重に進めてほしい。

○委員

- ・再犯防止推進計画は、被害を防ぐことを目的に、関係機関の連携を明確にするもの。就労や住居の支援、非行や薬物乱用の予防などが含まれ、情報共有が重要。地域には不安もあるが、立ち直ろうとする人を見守る視点も大切である。

○委員

- ・社会的孤立の視点が重要である。孤立が犯罪につながる可能性があるため、積極的な支援や専門職の関与が必要とされている。佐賀市ではDXを活用した支援の仕組みも進んでおり、当事者への支援が届きやすくなっている。進捗管理では、支援が届いていない人を把握する指標が求められ、特に子どもへの支援の充実が課題。不登校や虐待、若年層の失業などの問題が深刻化しており、福祉が就労や自立まで伴走する支援が必要とされている。

○委員

- ・再犯防止について、慎重な取り扱いも必要だという意見はもっともである。アンケートでは、市民も関心を持っていることが伺える。

○事務局

- ・再犯防止については、慎重に行っていききたい。検挙者の半数は再犯者という現実もあり、再犯防止は市民の安全にもつながるということは理解いただきたい。

○委員

- ・高齢化で地域活動の担い手が減少している。「活動に参加するだけでもボランティア」という意識を広めてほしい。

○事務局

- ・活動へ参加する最初の一步を後押しできるような関わり方や支援の仕方が大事だと考える。そうした取り組みを進めていきたい。

○委員

- ・地域福祉計画に再犯防止を取り入れるのは慎重に進める必要がある。再犯者の中でも福祉的支援が必要な方への支援から始めるべきではないか。また、課題は多いが全てに取り組むのは難しいため、重点施策を明確にして計画を作成すべきだ考える。

○事務局

- ・孤立させない、みんなで参加できる仕組み作りが大切だと認識している。再犯防止についても、個別的な対応は難しいが、顔の見える関係をつくることで社会的関係性を深めていけば、見守りができると思う。意見を聞きながら、実効性のある計画にしていきたい。

5 閉会

以上